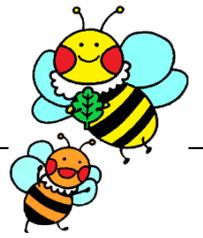




いぶき

【学校教育目標】 自律・尊重



大切にしてきたこと…

教師になって38年。親になって33年。ふりかえってみますと、職場でも家庭でも、長い間子どもの成長に関わってきました。たくさんの子どもたちと出逢い、成長を見守ってきた中で、私が大切にしてきたこと、子どもたちから教えてもらったことを、今日はお伝えさせていただきます。



任せること

私は自分の子どもに「勉強しなさい。」と言ったことがありません。勉強に限ったことではありませんが、子ども自身が決定し、主体的に取り組まない限り、何事も身につかないと思っています。ただし、「勉強することの意味」は必要に応じて子どもたちに伝えました。「勉強をすることで知識が身につく、社会を生き抜くための思考力・判断力が養われる」「自分の可能性と、将来の選択肢を広げることになる」といったことなどです。

私が勉強について何も言わず、何もやらせなかったせいでしょうか。長男は、平仮名で自分の名前も書けないまま、小学校に入学しました。その後、勉強に関しては鳴かず飛ばずのまま、あっという間に中学3年生になりました。ろくに受験勉強をしなかったにもかかわらず、彼は「絶対に合格することはない高校」を志望校に選びました。私は彼の実力と現状を伝え、「合格は不可能である」ことを説きました。それでも彼は、希望校を受験すると主張し続けました。親として情報は伝え、道理を説いた上で、彼がそう決めたので、私は彼の受験を承諾しました。結果は不合格。私からすれば当然です。しかし、彼は泣いていました。その時、私はこう言いました。「泣く必要はない。たいした努力もせずに不合格になるのは当たり前だ。」と。

高校に落ちたことと、父親から投げかけられた言葉が、よほど応えたのでしょうか。滑り止めだった高校に入学してからの彼は、人が変わったように勉強を始めました。結果、希望の大学へと進学し、今では一社会人として多少は人様のお役に立てるようになったようです。

私が長男から学んだこと。それは「任せる」ことの大切さです。自分で考え、自分で判断し、自分で決める。そして決めたことの結果も甘んじて受け止める。子どもは失敗を糧にしながら、成長します。もちろん、大人の助言が必要なきもありません。しかし、自分の生き方を決めるのは子ども自身です。子どもの人生は子どものものであります。(皆さんの人生が皆さんのものであるように…) 躓くことも子どもの権利です。躓き(ピンチ)は成長のチャンス。私はそう思っています。

信じて待つこと

5年生を担当した時のことです。ななこさん(仮名)という活発な女の子がいました。彼女はとても頑張り屋さんで、リーダーシップもあります。しかし、人の長所と短所は裏表です。一方で彼女には、自己中心的なところがあり、クラスの女子たちを、自分のいいように操るようになりました。1学期の中頃には、ななこさんが中心となつての「仲間外し」が始まりました。私は、子どもたちの関係性(トラブル)に、いつ介入しようか静観していました。と、その時です。ななこさん以外の女の子たちが大挙して私の元に来ました。彼女たちは言いました。「先生、私たちはななこさんに命令されたり、仲間はずれにされたりして困っています。嫌な思いをしています。なので、これからみんなで力を合わせて、ななこさんを仲間から外して、同じ思いを味わわせたいと思っています。いいですか?」

私は悩んだ末に、この話を受け入れ、今しばらく静観することにしました。子どもの判断と行動力を信じてみようと思ったからです。ななこさんは、あっという間に一人ぼっちとなりました。数日後、今度はななこさんが私の元を訪れました。彼女は泣きながらこう語りました。

「先生、私はみんなから仲間はずれにされています。でも、仕方がないんです。私がみんなにやってきたことだから。これから私はどうしたらいいですか?」

「どうしたらいいと思う?」私は聞き返しました。ななこさんはこう言いました。

「もともと悪いのは自分です。私がみんなに意地悪をしたから、みんなから同じ目に遭わせられているだけ。だから、仕方がないです。同じ目に遭って、自分がしたことの意味が分かりました。みんなに謝りたいです。」私は彼女に「自分が思うようにしてごらん。」と言いました。

ななこさんは心からみんなに謝りました。それから1週間。勇気を出して、ななこさんに反旗を翻した子どもたちは、考えた末に彼女の謝罪を受け入れました。その後、女の子たちは、ななこさんも含めて仲よく遊ぶようになりました。その後、ななこさんは2度と自分勝手な振る舞いをしませんでした。トラブルを乗り越えた分だけ、彼女たちの絆は深まったようでした。その子たちも45歳。今でも親友として交流しています。



子どものトラブルに大人がどこまで介入するのか。これはとても難しいところです。もちろん、いじめに発展するようであれば、大人が迅速に介入しなければならないこともあります。しかし、子どもがトラブルを自ら解決する中で、心の痛みと共に成長することもまた事実です。その力は子どもたちの中に備わっています。子どもの解決する力を信じて待つことが、時には必要です。大人が手を出し、口を出して介入することは簡単です。それをぐっと我慢して、子どもが解決する姿を見守ることが、私たち大人に求められているのではないかと思います。たくさんの子もたちが、成長する姿で私にそれを教えてくれました。



終わりに…

伝えたいことはまだたくさんあるのですが、紙面切れとなりました…。

私たちは日々、子育て・教育という困難な営みと格闘しています。目指すは、子どもたちの「自律と尊重」です。この営みのやっかいなところは、直ぐには結果が出ないことです。結果が出るのは、10年後、あるいは20年後かもしれません。子どもたちが大人へと成長した時、自分の足で世の中に出て、「自律」し、自他を「尊重」して人生を歩めるようになっていたとしたら、私たちの営みは正解に近かったのだと思います。目の前の子どもの姿を見取ることはもちろん大切です。しかし、常に近視眼的な捉え方をしていると、物事の本質を見誤ります。時に立ち止まり、俯瞰して子どもの姿を見つめることを、これからも大切にしていきたいものです。

「本当にそれでいいのか。本当にこれが正解なのか…」悩みと不安だらけの38年間でした。ただ、私の中には常に、拠り所となる基軸がありました。「子どもの自律と尊重に繋がるか」。常にこのことを基準に判断してきました。私の判断と関わりが正しかったのか、あるいは適切であったのか。答えはいつも、子どもたちが教えてくれました。

今年度も、私の拙文におつき合いいただきありがとうございました。伝えたい気持ちばかりが先行し、時にはわかりにくい伝え方や、失礼な表現があったことと思います。この場をお借りして深くお詫び申し上げます。ただ、私は「自分の考えが正しい」などと思いがあって「いぶき」を書いたことは1度もありません。この困難な営みである「子育てと教育」に挑む同志として、共に考えるきっかけを作ることができれば…。そのことだけを思い、書き続けてきました。少しでも保護者の皆様の心に響くことがあったなら、存外の幸せです。

一人ひとりのお子様の末永い幸せと、健やかな成長を願いながら、今年度の学校だよりを閉じさせていただきます。ありがとうございました。

◇ 3月の行事予定

※3月は下校時刻が目まぐるしく変わります。ご注意ください。

日	曜日	行事予定	日	曜日	行事予定
2	月	進度調整日 4時間授業 下校 13:20(~3日)	16	月	6年 3時間授業 下校 11:15 1~4年 4時間授業 下校 13:20 5年 5時間授業(特別日課) 下校 14:45
4	水	委員会活動(最終)	17	火	第55回 卒業証書授与式 5年 出席 1~4年 臨時休業
5	木	全校朝会 授業参観・懇談会(6年)	18	水	給食最終日 4時間授業 下校 13:20
6	金	全学年5時間授業 下校 14:40	19	木	3時間授業 下校 11:15
10	火	全学年5時間授業 下校 14:40(~12日) 授業参観・懇談会(1~5年, ひま) PTA役員会・実行委員会	20	金	(祝) 春分の日
12	木	6年給食最終日 卒業式予行練習	23	月	3時間授業 下校 11:15
13	金	6年 3時間授業 下校 11:15(~16日) 1~5年 5時間授業 下校 14:40	24	火	修了式・辞校式 3時間授業 下校 11:15